

## 看護師等養成所の運営に関する手引き

## 別表 3-2 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 (案)

## ■卒業時の到達度レベル

I : 単独で実施できる II : 看護師・教員の指導のもとで実施できる III : 学内演習で実施できる IV : 知識としてわかる

項目		技術の種類	卒業時の到達度
1. 環境調整技術	1	患者にとって快適な病床環境をつくることのできる	I
	2	基本的なベッドメイキングができる	I
	3	臥床患者のリネン交換ができる	II
2. 食事の援助技術	1	患者の状態に合わせて食事介助ができる (嚥下障害のある患者を除く)	I
	2	患者の食事摂取状況 (食行動、摂取方法、摂取量) をアセスメントできる	I
	3	経管栄養法を受けている患者の観察ができる	I
	4	患者の栄養状態をアセスメントできる	II
	5	患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	II
	6	患者の個別性を反映した食生活の改善を計画できる	II
	7	患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	II
	8	モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	III
	9	電解質データの基準値からの逸脱がわかる	IV
	10	患者の食生活上の改善点がわかる	IV
3. 排泄援助技術	1	自然な排便を促すための援助ができる	I
	2	自然な排尿を促すための援助ができる	I
	3	患者に合わせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる	I
	4	膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	I
	5	ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	II
	6	患者のおむつ交換ができる	II
	7	失禁をしている患者のケアができる	II

	8	膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる	Ⅱ
	9	モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	Ⅲ
	10	モデル人形にグリセリン浣腸ができる	Ⅲ
	11	失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護がわかる	Ⅳ
	12	基本的な摘便の方法、実施上の留意点がわかる	Ⅳ
	13	ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点がわかる	Ⅳ
4. 活動・休息援助技術	1	患者を車椅子で移送できる	Ⅰ
	2	患者の歩行・移動介助ができる	Ⅰ
	3	廃用症候群のリスクをアセスメントできる	Ⅰ
	4	入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	Ⅰ
	5	患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	Ⅰ
	6	臥床患者の体位変換ができる	Ⅱ
	7	患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる	Ⅱ
	8	廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる	Ⅱ
	9	目的に応じた安静保持の援助ができる	Ⅱ
	10	体動制限による苦痛を緩和できる	Ⅱ
	11	患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる	Ⅱ
	12	患者のストレッチャー移送ができる	Ⅱ
	13	関節可動域訓練ができる	Ⅱ
	14	廃用症候群予防のための呼吸機能を高める援助がわかる	Ⅳ
5. 清潔・衣生活援助技術	1	入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	Ⅰ
	2	患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	Ⅰ
	3	清拭援助を通して、患者の観察ができる	Ⅰ
	4	洗髪援助を通して、患者の観察ができる	Ⅰ
	5	口腔ケアを通して、患者の観察ができる	Ⅰ

	6	患者が身だしなみを整えるための援助ができる	I
	7	持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる	I
	8	入浴の介助ができる	II
	9	陰部の清潔保持の援助ができる	II
	10	臥床患者の清拭ができる	II
	11	臥床患者の洗髪ができる	II
	12	意識障害のない患者の口腔ケアができる	II
	13	患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計画できる	II
	14	持続静脈内点滴注射実施中の患者の寝衣交換ができる	II
	15	沐浴が実施できる	II
6.呼吸・循環を整える技術	1	酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	I
	2	患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法が実施できる	I
	3	患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	I
	4	末梢循環を促進するための部分浴・罨法・マッサージができる	I
	5	酸素吸入療法が実施できる	II
	6	気道内加湿ができる	II
	7	モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる	III
	8	モデル人形で、気管内吸引ができる	III
	9	モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージを実施できる	III
	10	酸素ポンベの操作ができる	III
	11	気管内吸引時の観察点がわかる	IV
	12	酸素の危険性を認識し、安全管理の必要性がわかる	IV
	13	人工呼吸器装着中の患者の観察点がわかる	IV
	14	低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点がわかる	IV
	15	循環機能のアセスメントの視点がわかる	IV

7. 創傷管理技術	1	患者の褥創発生の危険をアセスメントできる	I
	2	褥創予防のためのケアが計画できる	II
	3	褥創予防のためのケアが実施できる	II
	4	患者の創傷の観察ができる	II
	5	学生間で基本的な包帯法が実施できる	III
	6	創傷処置のための無菌操作ができる（ドレーン類の挿入部の処置も含む）	III
	7	創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴がわかる	IV
8. 与薬の技術	1	経口薬（バツカル錠・内服薬・舌下錠）の服薬後の観察ができる	II
	2	経皮・外用薬の投与前後の観察ができる	II
	3	直腸内与薬の投与前後の観察ができる	II
	4	点滴静脈内注射をうけている患者の観察点がわかる	II
	5	モデル人形に直腸内与薬が実施できる	III
	6	点滴静脈内注射の輸液の管理ができる	III
	7	モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる	III
	8	モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる	III
	9	モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる	III
	10	輸液ポンプの基本的な操作ができる	III
	11	経口薬の種類と服用方法がわかる	IV
	12	経皮・外用薬の与薬方法がわかる	IV
	13	中心静脈内栄養をうけている患者の観察点がわかる	IV
	14	皮内注射後の観察点がわかる	IV
	15	皮下注射後の観察点がわかる	IV
	16	筋肉内注射後の観察点がわかる	IV
	17	静脈内注射の実施方法がわかる	IV
	18	薬理作用をふまえた静脈内注射の危険性がわかる	IV

	19	静脈内注射実施中の異常な状態がわかる	IV
	20	抗生物質を投与されている患者の観察点がわかる	IV
	21	インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる	IV
	22	インシュリン製剤を投与されている患者の観察点がわかる	IV
	23	麻薬を投与されている患者の観察点がわかる	IV
	24	薬剤等の管理（毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む）方法がわかる	IV
	25	輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点がわかる	IV
9. 救命救急処置技術	1	緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	I
	2	患者の意識状態を観察できる	II
	3	モデル人形で気道確保が正しくできる	III
	4	モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる	III
	5	モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる	III
	6	除細動の原理がわかりモデル人形に AED を用いて正しく実施できる	III
	7	意識レベルの把握方法がわかる	IV
	8	止血法の原理がわかる	IV
10. 症状・生体機能管理技術	1	バイタルサインが正確に測定できる	I
	2	正確に身体計測ができる	I
	3	患者の一般状態の変化に気づくことができる	I
	4	系統的な症状の観察ができる	II
	5	バイタルサイン・身体測定データ・症状などから患者の状態をアセスメントできる	II
	6	目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	II
	7	簡易血糖測定ができる	II
	8	正確な検査が行えるための患者の準備ができる	II
	9	検査の介助ができる	II
	10	検査後の安静保持の援助ができる	II

	11	検査前、中、後の観察ができる	Ⅱ
	12	モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	Ⅲ
	13	血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方がわかる	Ⅳ
	14	身体侵襲を伴う検査の目的・方法、検査が生体に及ぼす影響がわかる	Ⅳ
11. 感染予防技術	1	スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗いが実施できる	Ⅰ
	2	必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の装着ができる	Ⅱ
	3	使用した器具の感染防止の取り扱いができる	Ⅱ
	4	感染性廃棄物の取り扱いができる	Ⅱ
	5	無菌操作が確実にできる	Ⅱ
	6	針刺し事故防止の対策が実施できる	Ⅱ
	7	針刺し事故後の感染防止の方法がわかる	Ⅳ
12. 安全管理の技術	1	インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる	Ⅰ
	2	災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる	Ⅰ
	3	患者を誤認しないための防止策を実施できる	Ⅰ
	4	患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	Ⅱ
	5	患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	Ⅱ
	6	放射線暴露の防止のための行動がとれる	Ⅱ
	7	誤薬防止の手順にそった与薬ができる	Ⅲ
	8	人体へのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策がわかる	Ⅳ
13. 安楽確保の技術	1	患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	Ⅱ
	2	患者の安楽を促進するためのケアができる	Ⅱ
	3	患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる	Ⅱ